

岩間地区

福島県いわき市



火力発電所

小名浜港で荷揚げされた石炭が使用されています。

海岸堤防

かさ上げし強化

被災防潮堤のモニュメント

祈念階段「生きる」

卵型のモニュメント

NPO法人が震災の記憶を後世に伝えるため、防災緑地の一角にモニュメントの設置とタイムカプセルの埋設を行いました。

祈念階段「偲ぶ」

防災緑地

木々が育ち新しい街を守ります。

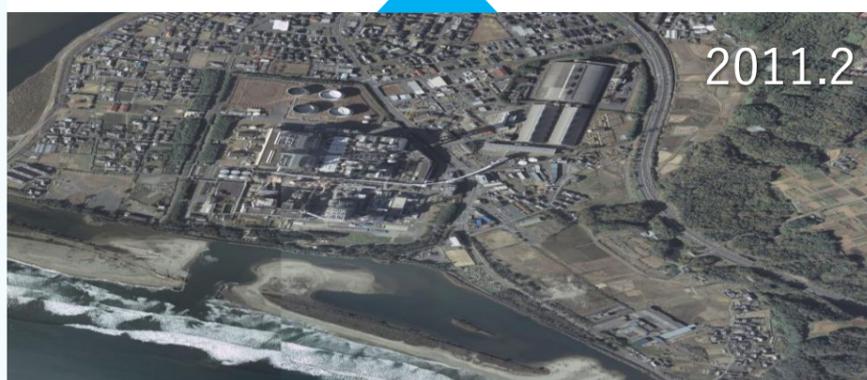
区画整理事業

防潮堤と防災緑地に守られる場所に、新しい街をつくっています。

県道 泉岩間植田線

2021.10

岩間のうつりかわり



来て
見て
岩間



ベコ太郎



被災防潮堤

東日本大震災で被災した防潮堤で、震災の記憶を後世へ引き継ぐことを目的に、防災緑地内に設置しました。

モニュメント「きみと」

「私たちの(き)記憶を(み)未来に(と)共に届ける」の願いが込められ「きみと」と名付けられました。



防災緑地

- ①津波から人や家を守る
- ②地域の交流の場
- ③緑豊かな環境や景観を作る大きな役割があります。

いわまぼうさいりょくちあんないず 岩間防災緑地案内図



『防災緑地とは…』
 防災緑地は、①津波から人や家を守る、②地域の交流の場、③緑豊かな環境や景観をつくるという3つの大きな役割をもっています。
 また、川や海の堤防と道路がいっしょになって津波から地域を守る「多重防御」という働きによって、防災力が総合的に向上したまちづくりを目指しています。

『岩間防災緑地について』
 岩間防災緑地は、延長約1km、幅約16～80mで面積3.9haの防災緑地です。
 防災緑地の海側には潮風に強いクロマツ、住宅地側には岩間地区に自生している代表的な樹種(クヌギ等の広葉樹)を植えた緑地帯となっております。

『防災緑地をきれいにしましょう。』
 岩間防災緑地は、みなさんが楽しく過ごすための施設です。施設をいつもきれいにするためには、一人一人がマナーやルールを守ることが大切です。
 お弁当やジュースの空き缶などのゴミ、また、ペットのフンは必ず持ち帰りましょう。

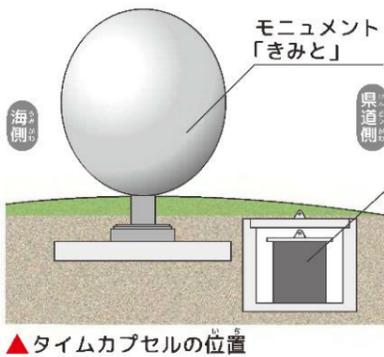
※この案内図は、防災緑地に実際にあるレイアウトを採用しています。
 施設に関するお問い合わせ先 福島県勿来土木事務所 (電話) 0246-63-2131

モニュメント「きみと」とタイムカプセル

特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンターが東京藝術大学等の協力を得て、モニュメントとタイムカプセルが平成30年9月16日に防災緑地内に設置されました。モニュメントは卵形の形状をしており、自然界では起こりえない位置で立っていて孵化を待つ生命の力強さと震災から立ち上がる人々への希望を表しています。タイムカプセルは、東日本大震災を後世に語り継ぐことを目的に設置され、震災から20年後の2031年3月11日に開けられます。モニュメントの名称は、募集により市内の小学生の案が選ばれました。「きみと」には、

「私たちのきおく(記憶)をみらい(未来)へともにとどける(届ける)」

というメッセージの頭文字と、モニュメントの形状(卵形)から、卵のきみ(黄身)がものごとの中心を表し、それが人々の輪がまるくつながっていく大切さやそれぞれの大切なことなどを想うきもちが込められています。



モニュメントの序幕式の様子 (平成30年9月16日)

- タイムカプセルには、
- ①被災された方々への震災当時に関する取材の記録
 - ②震災後5ヶ月間の新聞
 - ③勿来の子どもたち自身が描いた自画像が入っています。



被災防潮堤のモニュメント

東日本大震災で破壊した防潮堤の一部(約63t)です。地元の方々の要望を受けて、震災の記憶を風化させないことを目的として、モニュメントとして防災緑地内に設置しました。



▲津波で壊れた防潮堤の一部



▲防災緑地内に設置される様子

祈念階段「偲ぶ」

震災の記憶と震災からの復興を祈念して、地元の方々が東京藝術大学に依頼してデザインされた階段です。

「追憶と未来への階段」をコンセプトとしており、「鎮魂」と「復興」をイメージした、堤防上と浜辺を繋ぐ二つの階段からなっています。

その一つのこの階段は「鎮魂」を表現する「偲ぶ」をテーマとしたもので、階段横の段状になったテラスに海を眺められる場所が作られています。ここは海を望み震災の犠牲者の方々に偲んで頂ける場所としてデザインされたものです。



祈念階段「偲ぶ」▶

祈念階段「生きる」

震災の記憶と震災からの復興を祈念して、地元の方々が東京藝術大学に依頼してデザインされた階段です。

「追憶と未来への階段」をコンセプトとしており、「鎮魂」と「復興」をイメージした、堤防上と浜辺を繋ぐ二つの階段からなっています。

その一つのこの階段は「復興」を表現する「生きる」をテーマとしたもので、「鎮魂の浜辺」に降りた人々が、過去にあった被災の教訓のもと現世で生きることを改めて実感して街に戻る階段のイメージとしてデザインされたものです。



祈念階段「生きる」▶

防災緑地に植栽している主な樹木



クロマツ

本州から九州まで分布する常緑針葉樹です。いわきの海岸風景、白砂青松(はくさせいしょう・はくしゃせいしょう)の青松はクロマツをさしています。潮風に強いことから、江戸時代に磐城平藩を治めた内藤政長公が塩除けのマツとして植栽を始めた海岸林は政長公の法名から道山林(どうざんばやし)と呼ばれ、現在も海岸防災林としてその役目を果たしています。



クヌギ(どんぐりが実ります)

東北地方から九州、沖縄に分布する落葉高木です。石油燃料に移行する前は薪炭材として用いられており、現在もシイタケのほだ木として利用、栽培されています。名前はクニキ(国木)やクノキ(食之木)、クリニギ(栗似木)が由来といわれています。まるいどんぐりは受粉から成熟まで二年かかる二年成です。



コナラ(どんぐりが実ります)

北海道から九州まで広く分布する落葉高木です。石油燃料に移行する前は薪炭材として用いられており、現在もシイタケのほだ木として利用されています。名前の由来はしなやかなさを表す「ナラナラ」や「平ら」など諸説あります。どんぐりは一年で成熟する一年成で、昔はあくを抜き食用としました。



エゴノキ

日本全国に分布する落葉高木です。いわき周辺の山や森でも観察することができます。下を向いて咲く白い花が美しい樹木ですが、エゴという名は実にエゴサボン(有毒)が含まれ、果皮がえごい(渋みがある)ことによるといわれています。ヤマガラなど鳥は好んで食べますが、人は食べることができません。



スダジイ(どんぐりが実ります)

福島県と新潟県以西から屋久島まで分布する常緑高木です。材はシイタケのほだ木にも利用されています。いわきでは「シイノキ」や「シイ」と呼ばれることも多いですが、同じ樹木をさしています。細長い卵型をしたどんぐりは受粉から成熟まで二年かかる二年成で、あくが少なく食用とされていました。



タブノキ

青森から沖縄まで分布する常緑高木で、イヌグスとも呼ばれています。いわきでは海岸沿いでしか見ることができません。卵形の大きな赤味を帯びた冬芽が特徴で、5月以降に枝先から赤い新葉と一緒に黄緑色の花をつけます。いわきの海岸沿いの山々でもその季節には紅い若葉を見ることができます。



ヤマザクラ

宮城・新潟県以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木です。昔は桜といえばヤマザクラをさし、有名な吉野の桜もヤマザクラです。葉の展開と同時に開花する性質を持ち、和歌や俳句に詠まれたり、文様にも描かれるなど、古くから日本人に親しまれてきました。いわきでは勿来の関が名所です。



ヤマボウシ

本州、四国、九州に分布する落葉高木で、ヤマグワとも呼ばれています。白く見えるのは総苞で、中心にあるのが花です。ヤマボウシという名は中心の丸いつぼみを坊主頭に、白い総苞を頭巾にみたてたことによります。街路樹や公園で目にするハナミズキは類似種で別名をアメリカヤマボウシといいます。

※この説明板は市内の樹木医に協力頂き作成しました